

「時限爆弾」

舞台には人1と3と爆弾魔。硬そうな箱がある。
明転。

音『チッチッチチ…』

爆弾魔「はーっはっはっは！あと数十秒で俺の作った時限爆弾が大爆発を起こすぞ！はーっはっはっは！」

人1「クソ！どうにかなんないのかよ！？」

人2「嫌っ！こんなところで死にたくない！」

爆弾魔「はーっはっはっは！泣け！叫べ！お前らなんか道連れだ！俺の作った爆弾と一緒にあの世へいこーぜ！はははは！！」

音声『残り…30秒です』

人3「皆さん、この箱の中から無理やり時限爆弾を取り出せないでしょうか…！？」

人1「やってみよう！」

人1、箱をがちやがちやといじくる。

爆弾魔「はーっはっはっは！無駄だ無駄だ！時限爆弾が入っているその箱は特殊な超合金でできている！開けることは不可能だ！どんな超パワーや超衝撃や超高熱であつたとしても傷1つ付けることは不可能だ！その箱の頑丈さは普通じゃない！例えばミサイルだろうが隕石だろうが破壊することは不可能だ！はーっはっはっは！」

人1と3、手を止め爆弾魔をじつと見る。

音声『爆発まで…3…2…1…』

『ボンッ！』という音。

間

人1「それじゃ警察に突き出しまーす」

爆弾魔「はーい」

暗転。